

無償資金協力

案件概要書

2020年4月28日

1. 基本情報

- (1) 国名：ラオス人民民主共和国
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：首都ビエンチャン
- (3) 案件名：ラオス国立大学工学部施設機材整備計画 (The Project for Improvement of Facility and Laboratory Equipment in the Faculty of Engineering, National University of Laos)
- (4) 事業の要約：本計画は、首都ビエンチャンにおいてラオス国立大学工学部の教育及び研究活動に必要な基礎的な施設・機材の整備を行うことにより、教育・研究環境の改善を図り、もって産業界のニーズに合った工学人材の育成に寄与するもの。

2. 計画の背景と必要性

(1) 本計画を実施する外交的意義

ASEAN 経済共同体が発足し、経済統合が進む中、ASEAN 唯一の内陸国であるラオスの安定と繁栄は、ASEAN の一体性及び地域全体の平和と繁栄の確保のために不可欠である。

ラオス政府は「第8次国家社会開発5か年計画（2016-2020）」で掲げる3つの成果（①経済、②社会、③環境の各分野におけるバランスの取れた発展）の実現を通じ、2020年までの後発開発途上国（LDC）脱却を目標としている。本事業は、かかるラオスの開発の取組の支援に向けて、両国首脳間で2016年に合意した「日ラオス開発協力共同計画」を具現化する取組と位置づけられる。具体的には、同計画における「三本柱」のII「産業の多角化と競争力強化、そのための産業人材育成」（高等・職業訓練教育の拡充）に合致する。

また、ラオスに対する国別援助方針でも重点分野（中目標）の3番目「教育環境の整備と人材」における「高等・技術教育改善プログラム」に位置づけられるところ、我が国の対ラオス支援の重点分野との整合性が認められる。

さらに、2018年4月に河野外相（当時）がラオスに訪問した際の先方国家副主席や外相における会談においても「ラオスにおける人材育成に引き続き取り組んでいく」旨を表明した。本事業はその具現化として位置づけられ、実施の意義は極めて高い。

(2) 当該国における高等教育セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

ラオスでは、近代化に伴い経済構造に占める鉱工業・建設業の割合が緩やかに増加している。第8次国家社会経済開発計画（2016-2020年）（以下、「NSEDP」という。）では、鉱工業・建設業の年平均成長率の目標値を9.3%（農林業3.2%、サービス業8.9%）と定め、同産業を経済成長の牽引役としている。しかしながら、周辺国の人件費高騰等に伴い、域内サプライチェーンの再構築が進み、ラオスにおける本邦・外資企業の工場や公共インフラ建設事業などの雇用機会が増加しており、質の高い工学系人材が求められる一方、ラオス人エンジニアの専門知識・技術力が低く、エンジニ

アや中間マネジメント層は外国人が雇用されることが多い。

ラオス政府は、NSEDPにおいて、工学系人材の育成を強化する方針であり、第8次教育開発5か年計画（2016-2020年）（以下、「ESDP」という。）では、産業界のニーズを踏まえたカリキュラムの開発と研究能力強化を通じた高等教育の質の向上を優先課題としている。また、高等教育開発計画（2010-2020年）では、国内4つの国立大学工学部のうち、唯一首都に位置し、最も多くの卒業生を輩出するラオス国立大学工学部において、座学に偏ったカリキュラムの改善、国際的な大学間ネットワークや産業界との連携強化を通じた質の高い人材育成に取り組む方針を打ち出している。ラオス国立大学工学部施設機材整備計画（以下、「本計画」という。）は、同学部の施設・機材の整備を行い、また採択済の技術協力プロジェクト「産業発展のための工学人材強化プロジェクト」とあわせて、教育・研究環境の改善を通じた質の高い工学系人材の輩出を図るものであり、NSEDPの重点課題である工学系人材の育成強化および産業界のニーズに合致した人材の育成に貢献するものと位置付けられる。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

① 計画内容

ア) 施設、機材等の内容：機械工学，土木工学，電気工学，電子情報通信工学（計4分野）における以下の施設・機材。

【施設】実験施設（研究室，実験室，教室等），工学部共通施設（測定分析室，図書館等）

【機材】教育用機材（実験・実習等），研究用機材（工作，測定等）。

イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

【コンサルティング・サービス】詳細設計，入札補助，施工・調達監理。

【ソフトコンポーネント】機材の管理方法に関する現地研修

② 期待される開発効果：対象4分野における機材活用科目数の増加（80科目）及び機材活用により教育・実験を行った学生数の増加（延べ3,500人）を通じて，高等教育が拡充され，産業界のニーズに合った工学人材の育成への貢献が期待される。

③ 計画実施機関／実施体制：ラオス教育・スポーツ省（Ministry of Education and Sports），ラオス国立大学工学部（The Faculty of Engineering, National University of Laos）

④ 運営／維持管理体制：本計画で整備される施設・機材は工学部側の維持管理能力を十分考慮し，実施機関による保守が可能なものとし，必要な予算については，協力準備調査で確認し，同予算を踏まえた事業計画を作成する。

(2) その他特記事項

・環境社会配慮カテゴリ分類：C

・ジェンダー分類：GI(S)（ジェンダー活動統合案件）

・他機関との連携・役割分担：アジア開発銀行（ADB）が職業訓練分野での協力を計画中のため，本計画との相乗効果を生む連携の可能性について検討する。

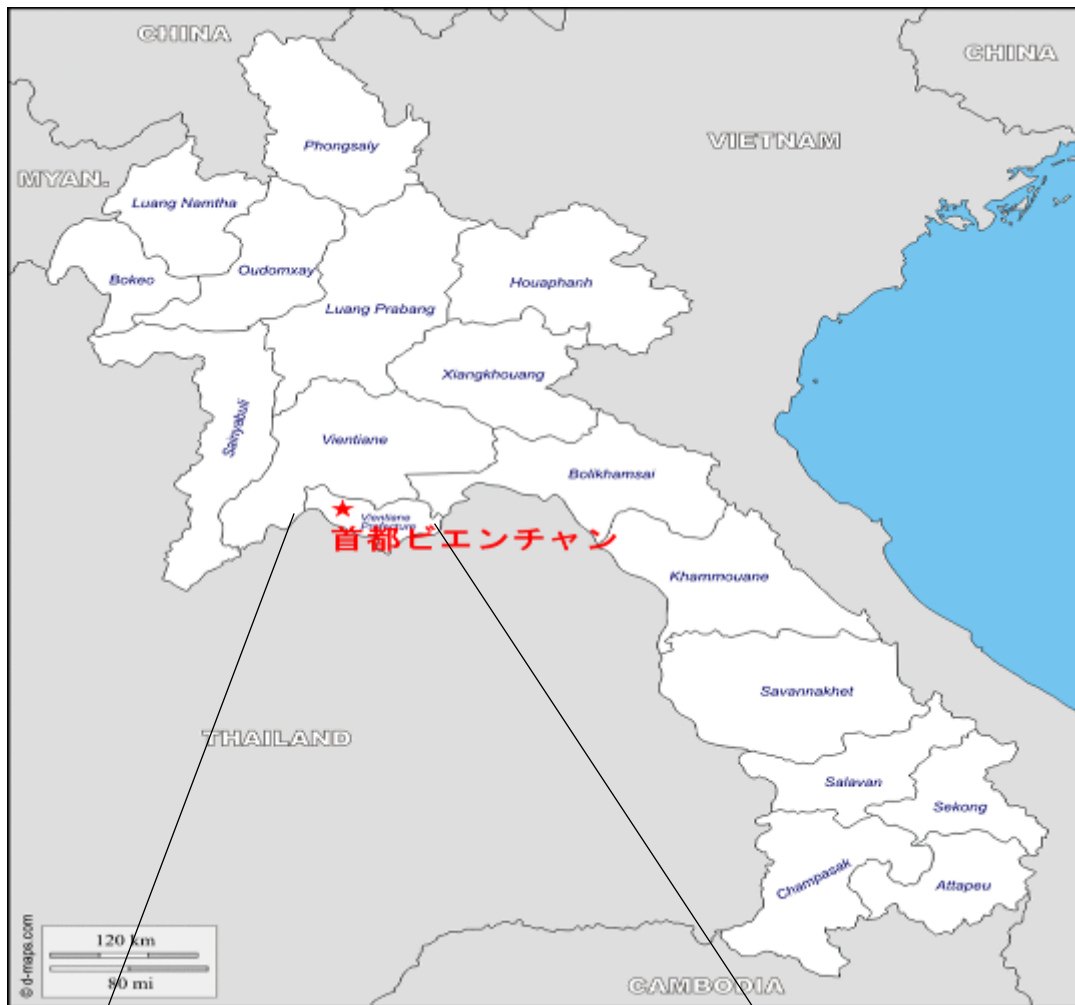
4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

マレーシア向け技術協力「マレーシア日本国際工科院整備プロジェクト」では、研究室中心の日本式工学教育の導入等により、日本の企業文化を理解した学生は業務への適応能力が高いことがインターンシップ受け入れ先の日系企業により評価されている。本計画では、並行して実施する技術協力にて同様の取り組みを一部導入し、日系企業を含む産業界からのニーズに適応する人材の育成を検討するとともに、協力準備調査にて必要なレベルの機材ニーズの把握および供与を十分検討する。

以 上

[別添資料] 地図

出典：d-maps.com



[別添資料] 写真



対象の既存施設（実験施設）



土木学科の実験室



機械学科の実験室



機械学科の実験機材